

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら	ユニット名	1号棟
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北15245-2		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族より今までの暮らし方等の情報を得ながら、家事などの習慣を続けたり、活動のきっかけにつながることで、自発性を高め心身の活性化につながるよう日々のケアに取り組んでおります。又、行事や地域への外出ドライブなど季節を身近に感じ楽しみがもてるよう努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との豊かな交流や家庭的な環境の下、一人ひとりがその人らしく生活しその人に合った役割を持ち、家族の一員として温かみのある生活を過ごしている。季節ごとの野菜の差し入れや、地元で開催される桜島大根の品評会の品をホームに展示しに来てくれるなど、地域との交流が構築されている。利用者は住み慣れた町で菜園の新鮮な野菜や栗・柿の実の収穫を楽しみ、柿の実では干し柿作りなどを楽しんでいる。職員は理念である”笑顔いっぱい大家族”を共有して支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議などの場において確認をおこない意識づけをし実践につながるよう努めている。		理念は共有している。利用者一人ひとりが家族の一員としての役割を持てる環境作りや調理時の笑顔に理念が生かされ実践されている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は減退している。自治会への加入は継続し、職員が代表し地区のサロン会や行事に参加することで事業所を知ってもらい、理解や協力につながるよう努めている。		コロナ禍につき屋外活動を自粛しているが、地域住民から差し入れがあるなど交流はある。職員も又地区の行事等に参加し地区の一員として努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向け、サロン会など交流の場がもてることで発信していく機会になっているが、いつでも電話相談など対応できるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や取り組みの報告をおこない、そこで得た意見をサービスに活かせるよう努めている		コロナ感染予防対策として参加人員が制限されているが、書面での報告や会議録をホームに掲示している。会議で予防体操の取り組みについての提案があり、アドバイスを受け運営に反映している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会義等への出席やサービスの取り組み等への相談など図りやすい協力関係を得ることができ交流をもつことができている。		介護保険制度の改定の報告や助言を受け利用者のサービス向上に生かしている。行政職員とは、必要に応じて相談できる関係を築いている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないのか？と常にケアをとおり職員間で声をかけあったり、勉強会等で理解につながるよう努めている		玄関は施錠していない。外出する利用者には一緒に付き添い外出しその人の思いに沿うように支援している。2つのユニット間も自由に行き来している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で勉強会を実施し、繰り返し学んでいくことで全職員の理解に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいないが必要性について考え理解を得る場として勉強会や研修などへの取り組みをおこなっていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族へ分かりやすく説明をおこない、理解・同意を得ている。再度、説明を求められれば、その都度、対応をおこなっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者・家族・行政の代表者より要望や意見があれば運営に反映できるよう努めている。	面会時や電話等で様々な意見や要望が出されている。又運営推進会議で2つのユニットの利用者及び家族が交替で参加するシステムになっており、出された意見や要望はサービス向上に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や申し送り時に職員が意見や提案をだしやすい雰囲気づくりや声に耳を傾け改善につなげている。	申し送りノートを活用し意見や要望を受けている。様々な意見や要望があり運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を考え向上心を持って働けるよう、個々の努力や勤務状況等を把握しながら条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や段階的に応じた、法人内外の研修に働きかけ、職員育成をおこなっている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会が減り、研修方法も変化している中で、情報交換につながるよう工夫しながら努め取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に施設の雰囲気等を直接見て頂いたり、必要に応じて自宅を訪問し不安なことや要望に耳を傾けながら信頼関係を築いていき安心して入居していただけるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望などを受け止め相談にのれるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を把握し、家族の意向もふまえながら支援を見極められるよう努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のペースにならず、残存機能を見過ごさないように一人ひとりに関わる時間にゆとりをもつよう努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に状態報告をおこない家族にも今の現状を知ってもらうようにしている。家族の協力が不可欠であることを理解してもらえるよう関係性づくりに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限を強いられる状況で社会交流が減退している。状況に合わせ本人や家族の希望に応じその都度対応をおこなっている。	感染症対策の為窓越しや網戸越しの面会を取り入れている。又毎月お便りを配布したり手紙や電話などの取次を行う等馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が挨拶を交わすことが日常になることで自ら声をかけあう場面や話相手にながっているため、よりよい関係性がつくれるよう努めている			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の次の住まいや医療機関であっても、電話で様子伺いや面会などの機会をもつようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉のおくをくみ取ることができるよう聞く姿勢であったり、言葉かけに配慮しながら、思いに近づく工夫や方法はないかを努めている。		利用者一人ひとりの表情や発する声など、言葉以外の表現や表情から汲み取り把握している。希望や意向があれば計画を立て意に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等を知ること、言動の理解につながったり、対応などのヒントになるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の流れを把握しながら、一方的な活動にならないこと、できる能力を活かせる支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をふまえながら、担当者を中心に課題を職員間で話し合い、ケアの在り方を検討している。そこででた意見や具体的な支援を介護計画作成に活かしている		会議に於いてケア介入困難者へのアプローチを検討するなど、その人に応じ意見やアイデアを反映した計画を作成している。計画書は全職員が周知しており日々のケアに生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を詳細に残すよう努め、情報を共有しながらケアを振り返り、介護計画作成の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、できる限り柔軟な支援やサービスをおこなっている。			

宮崎県都農町 グループホーム「あおぞら」(1号棟)

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロン会の中止やボランティア等による慰問受入れができない状況が続き楽しめる場が減退している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望している病院を利用している。定期的な受診により療養相談がスムーズに図れ緊急時の対応受入れ可能で医療をうけることができている			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の変化に気付けるよう観察をおこない、看護職への報告・相談をおこなっていることで、早期に受診を判断できている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室と情報交換や調整をおこない連携を図ることができている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人に寄り添い、家族の思いも含め尊重している。又、主治医の協力や終末期の在り方について職員で話し合い支援に努めている。		ホームで最期を迎えたい希望者はいる。ホームも看取り指針書を作成し、看取り介護委員会設置や職員の教育等多方面に体制を整え利用者・家族の希望に沿った対応ができるように検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得ながら勉強会を実施している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練(昼・夜間)を実施しており、ご家族も含め地域の方の協力を努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にとって理解しやすく不快感を与えない対応を職員は心掛けている		特に入浴や排せつのケアでは誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。又接遇についての勉強会を毎年1回以上は取り入れ、職員全員で確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾け聞く姿勢に努めることで表出しやすい対応や自己決定できる声かけなどに努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中で一日の過ごし方を柔軟に変えその人らしい暮らしができるよう努めている。家事活動などは積極的に取り組まれている方が多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、衣服は自己にて選択できるよう支援をおこなっている。又、洗面台には手の届く範囲に櫛など準備し、いつでも使用できるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日などのメニューを一緒に考え、一人ひとりの能力に合わせながら下ごしらえや配膳などができるよう支援をおこなっている		誕生日や行事の時はリクエスト食にしている。一緒に準備しホットプレート等を活用し目の前で調理したり、テラスでの食事やお茶会を行い食事が楽しいものとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり、食事・水分量などを把握しながら栄養面での支援をおこなっている。必要に応じて、かかりつけ医より栄養士による栄養指導も受けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。口腔内の清潔保持の必要性なども自覚を促せるよう声かけし習慣にできるよう支援をおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを周知し、失敗がないよう声かけ誘導をおこなっている。		活動の前後を見計らい、声掛けをしたり排泄パターン表を活用し全員の方がトイレで排泄できるように支援している。排泄の際には自身で腹圧をかけ残尿などが無いよう促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動など個々に応じた予防に取り組み、自然排便につながるよう努めている。食物繊維も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調など状態を把握し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を実施している。		人が入った後を気にする利用者には順番を配慮したり、湯をその都度入れ替えて対応している。時には入浴剤を使用したり季節のゆず風呂を取り入れ、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して眠ることができるよう、時間や状況に応じて対応をおこなっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し用法や用量について看護職を中心に職員は理解している。状態の変化があれば主治医に報告相談につなげている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を役割とする方が多く習慣的におこなうことができている。利用者同士のおしゃべりや歌や踊りなど鑑賞する時間を喜ばれるが、一番は食の楽しみや外気に触れることで気分転換につながっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域へのドライブや園庭の散歩の機会を設けている。家族の協力で自宅に戻られる方やドライブに行かれている。		「どこでも良いから外に出たいね、〇〇の花を見たいね」など希望が多く計画を立てドライブを実施している。ホームの菜園で芋ほりや柿・栗の実の採り入れなどを支援して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買い物においては、本人・家族と相談の上決めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけたり取り次いで家族などの連絡がとれるようにしている。本人への手紙や郵便物は直接手渡している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地良く過ごせるよう温度湿度を保ち定期的な換気など配慮している。季節感を取り入れた作品などを掲示することで共有空間の楽しみづくりに努めている。		共用空間は外の景色が常に目に入るようソファの位置や解放感づくりを工夫し、温かみのある家庭的な空間作りをしている。庭には季節に合わせ花の植え替えを行い楽しんでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの居場所づくりに配慮しながら読書をしたり思い思いに過ごせる工夫をおこなっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真などを持ち込まれ、その人らしく安心して過ごせるように配慮している。		家族の写真を置いたり、使い慣れた家具を持ち込みそれぞれ馴染みのある環境作りがしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが混乱なく自分の力を活かせるよう安全な環境づくりを工夫している。環境の変化(配置の移動など)は極力避けるよう努めている。			